

座談会

英語で世界とつながる



さまざまな分野でグローバル化が進む中、国際共通語といえる英語を身に付け、使うことの重要性は高まるばかり。小学校で外国語活動を導入するなど国や教育現場も対策を講じてきたが、その成果はあまり得られていないようだ。これからの英語の学び方やコミュニケーション力の向上法などについて、英語を武器に国際社会で活躍してきた方々が自身の経験を踏まえ語り合った。司会は西日本新聞社会長の川崎隆生。



日本英語交流連盟会長
沼田 貞昭氏

高校3年時に米国留学。東京大学法学部卒。オックスフォード大学修士。1966年外務省に入省し、在英国特命全権公使、外務報道官、カナダ特命全権大使などを歴任(72~82年歴代総理の英語通訳)。2011年から現職。東京都出身。



西南学院大学教授
野田 順康氏

北海道大学修了。九州大学博士修了。博士(人間環境学)。1979年旧国土庁入庁。国連人道問題局専門官、国連人間居住計画アジア太平洋地域本部長など通算15年間の国連勤務(ジュネーブ、ナイロビなど)を経験。2013年から現職。京都府出身。

— ディベートで論理的思考と 議論の鍛錬 —

— 自分を外国にいるのと 同じ環境に置く —

川崎 皆さんには英語を駆使して素晴らしいキャリアを重ねてこられました。ご自身の英語力が上がったと感じたのはお幾つの頃でどんな勉強をされたのですか。

久保田 最初に英語が上達したと実感したのは中学1年の夏休み。1学期に習ったところを毎日10回音読して10ノートに書くことを40日間続けたら、英語では誰にも負けないくらいになりました。

野田 国連での仕事は全て英語。

英語を学び、人を育てる

— 歴史を勉強し 日本をもつとよく知ろう —

基本的学び

最初の国連勤務の2年数ヶ月は、ミ

スして何度も書類を書き換え、それを提出しては上司とディスカッション

することの繰り返し。その過程の

中で、文法面をはじめ総合的に英語

力が改善されました。

川崎 それではユニークな経験を

お持ちで、大変参考になります。今

の若者へのアドバイスを。

久保田 音読を欠かさず中学校

の英語の教科書は全部暗記しまし

た。そうすると自分の言いたいこと

まで4年間続け、かなり効果があり

ました。

交流し磨く

川崎 一般的に日本人は英語が不得手だとよくいわれています。どうすればいいとお考えですか。

久保田 やはり留学は大きな訓練になるのでは。留学先のオックスフォード大学では、当時、昼食と夕飯は皆そろって食べるのが決まり。周りに座っている仲間と時にはジョーニングを積み重ねたことでかなり力が付きました。英語では、とくに英会話といわれますが、ますます書くことが大事だと思います。

野田 国連での仕事は全て英語。



西日本シティ銀行会長
久保田 勇夫氏

東京大学法学部卒。オックスフォード大学経済学修士。1966年旧大蔵省に入省し、大臣官房審議官、国際金融局次長、関税局長などを歴任。大蔵大臣の通訳を手掛ける。2014年から現職。福岡県出身。

力を養うことが大切です。その訓練には、BBCのラジオで聴いた内容を口で言ってみる。あるいは英字新聞を読んで記事のサマリー(要約)と朝の1時間を有効活用する勉強法を書く、もしくは日記を書く。そういったことがお勧めです。

野田 最初の国連勤務を終えて帰国したとき、もっと実力を付けようと朝の1時間を勉強法を実践しました。朝食後、BBCのテレビを30分間見る。家から地下鉄の駅までの10分間、BBCの内容のサマリーをつぶやきながら歩く。地下鉄に乗ったら電車までの20分間、英字新聞をとにかく前日より1行で多く読む。これを次の国連勤務までの4年間続け、かなり効果がありました。

川崎 なるほど、そうなのですね。TOEIC600点程度でもゼミで徹底的にトレーニングしたら1年後は800点ぐらいに上がる学生が多く、留学した人に引けを取りません。自分のいる環境を外国にいるのと同じ環境にすれば、留学しなくても英語は上達すると思っています。

沼田 英語で議論する力を付けるには、ディベートが一番です。ディベートはいわば説得の技法。読んで、書いて、聞いて、筋道立てで話さなければいけない。論理的思考が欠かせません。当運監では学生や社会人のバーラメンタリー(即興)ディベート大会を定期的に開催し、国際大

会にも出場する優秀なディベーターが出てきています。その中には留学経験のない人もいます。

久保田 日本人が国際的に活躍する一つは意見の違う人がいろいろ議論することは良いことです。いままでの間に年に数週間外国に行き、外国人と接していくいろいろ議論する、その結果、最終的に良い結果を得られることがあります。そのための手段としてもディベートが大切です。私も大学時代かなり熱心にディベートをやりました。

川崎 最近、若者の留学志向がなくなった耳にしますが、大学の教

会にも出場する優秀なディベーターが出てきています。その中には留学経験のない人もいます。

久保田 日本人が国際的に活躍する一つは意見の違う人がいろいろ議論するには、一つは意見の違う人がいろいろ議論することは良いことです。いままでの間に年に数週間外国に行き、外国人と接していくいろいろ議論する、その結果、最終的に良い結果を得られることがあります。そのための手段としてもディベートが大切です。私も大学時代かなり熱心にディベートをやりました。

野田 言葉には品格が表れるもの。また単語だけで話すのでなくフレーズで話すことを心掛けてほしい。もう一つは、例えば国際線のパリオットが操る英語のように明快で誰にでも通じる英語で話すこと。それはなぜだという話題になります。日本は歴史についても少し勉強をしていただきたいですね。

久保田 言葉には品格が表れるもの。また単語だけで話すのでなくフレーズで話すことを心掛けてほしい。もう一つは、例えば国際線のパリオットが操る英語のように明快で誰にでも通じる英語で話すこと。それはなぜだという話題になります。日本は歴史についても少し勉強をしていただきたいですね。

野田 最後の最後は、どうまでスニーキングコンプリヘンション(聽解力)の技量があるか。それによりディベーティングも強くなっていくのだと思います。

久保田 その一方で、先ほど沼田さんが言ったようにどれだけ書く能

力があるか、も。それがないと相手の言っている意味の深さを理解できません。

外向きの意識

川崎 諸外国と日本では外国语、特に英語の教え方に差があるのでしょ

うか。

野田 韓国や中国などではオーラル(話す、聞く)に重点を置いた英語教育に取り組み、結果を出してい

ます。日本は恥じらいの文化があり、セント英語で行っています。当初は

TOEIC600点程度でもゼミで

人もあります。私は大学での授業はほ

ぼ英語、ゼミに至っては100パ

ー

セント英語で行っています。当時は

TOEIC600点程度でもゼミで

かです。まず話す姿勢から変えないと英語教育も難しいでしょう。第一歩として、小中学校の時代に、日本語でもよいから自分の意見をみんなで大きい声で発言できるように練習をしたいものです。

沼田 先日、北九州市で開催され

たアジア未来会議で、インドネシアの若者は少々発音が変でも英語でど

んな修練をしたいものです。

沼田 先日、北九州市で開催され

</